

<講座報告>

B 支援学校、支援学級における自立活動の実際 ～新学習要領にも対応できる取り組み 箕面支援学校 校長 早野 眞美先生、リーディングスタッフ 植野 耕司先生 平山 雄大先生 佐藤 学先生

自立活動の指導を通して、個のニーズに応えられるよう研鑽を重ねた大阪府立箕面支援学校リーディングスタッフの3名の先生による報告がありました。報告の内容は、以下の通りです。

① 支援学級における自立活動の実際（平山 雄大先生）

平山先生の報告は、科学的にアプローチする自立活動の内容で下。心理的疑似体験プログラムの体験をはじめ、アンガーマネジメントや感覚過敏、身体の動きに関するスクーターボードやバランスボール、そして絵カードによるコミュニケーション（PECS）など、それぞれ具体的な支援の報告がありました。また、アセスメント（実態把握）を行い、学校生活全体で取り組む必要があるということが伝えられました。

② 肢体不自由校での実践を通して（植野 耕司先生）

植野先生の報告は、自立活動は楽しく取り組むことを前提とした、児童の事例と指導実践が挙げられました。身体と意思表示の取り組みをもとに、支援学校だからこその支援について共有されました。また、新学習指導要領に関連させ、主体的で対話的な学びである「郵便局へGO!!」の取り組みが報告されました。最後に、保護者と本人が元気になるような目標を立てることの大切さが伝えられました。

③ 知的障害・支援学校での自立活動（佐藤 学先生）

佐藤先生の報告は、ICFの視点や自立活動の位置づけ、指導実践の内容でした。児童の事例に関して、広汎性発達障害の児童の例が挙げられました。課題の要因をもとに、実態把握と項目の選定の過程が示されました。具体的な取り組みや児童の変化の様子などを通して、自立活動の『ねらい』を明確にすることで、アプローチが変わるということが伝えられました。

